

【B年】

聖霊降臨後第五主日

特定七

すべての良い賜物を造り、これを与えてくださる力ある神よ、み名を愛する愛をわたしたちの心に植え、まことの信仰を増し加え、すべての善をもつて養い、み恵みのうちにこれを保たせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はヨブ記第三八章一節から」

- 1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。
- 2 これは何者か。知識もないのに、言葉を重ねて神の経緯を暗くするとは。

3 男らしく、腰に帯をせよ。わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。

4 わたしが大地を据えたとき

お前はどこにいたのか。知っていたというなら理解していることを言ってみよ。

5 誰がその広がりやを定めたかを知っているのか。誰がその上に測り縄を張ったのか。

6 基の柱はどこに沈められたのか。誰が隅の親石を置いたのか。

7 そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い神の子らは皆、喜びの声をあげた。

8 海は二つの扉を押し開いてほとぼしり母の胎から溢れ出た。

9 わたしは密雲をその着物とし濃霧をその産着としてまとわせた。

10 しかし、わたしはそれに限界を定め二つの扉にかんぬきを付け

11 「ここまでは来てよいが越えてはならない。高ぶる波をここどとどめよ」と命じた。

16 お前は海の湧き出るところまで行き着き深淵の底を行き巡ったことがあるか。

17 死の門がお前に姿を見せ

18 お前はまた、大地の広がりやを隅々まで調べたことがあるか。そのすべてを知っているなら

言いつてみよ。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第二〇七編 一〜三、一三〜三三節

1 「主しゅに感謝かんしゃせよ、主しゅは慈いしみ深く＝ その憐あわれみは永遠えいえん」
 2 主しゅに贖あがなわれた者は叫さけべ＝ 神かみは彼かれらを敵てきの手てから救すくい出だし
 3 東ひがしと西にし、北きたと南みなみの＝ すべてすべての国くにから集あつめられた
 神かみに向むかって船ふな出でする者もの＝ 海うみを渡わたって商あきないする者もの
 23 彼かれらは大海原おおうなばらで主しゅのみ業わざと＝ 不ふ思議しぎなみ業わざとを見みた
 24 彼かれらは大海原おおうなばらで主しゅのみ業わざと＝ 不ふ思議しぎなみ業わざとを見みた
 25 神かみが命いのちじられるとあらしが起おこり＝ 波なみを高たかく上げた
 26 船ふねは天てんまで上あがり、淵ぶちまで下くだり＝ 彼かれらは生いきた心こころ地ちも
 しなかつた
 27 酔よった人ひとのようによろめき＝ なすすべも知しらなかつた
 28 彼かれらが苦くるしみの中なかから主しゅに助たすけを求もとめると＝ 神かみは悩なやみ
 から彼かれらを救すくい出だされた
 29 あらしは鎮しずめられ＝ 海うみはなぎとなつた
 30 神かみは彼かれらの目めざす港みなとに導みちびかれ＝ 彼かれらは静しずかな海うみを楽たの

31 人ひとの子こらよ、主しゅの慈いしみと＝ その不ふ思議しぎなみ業わざのゆ
 えに、主しゅに感謝かんしゃせよ
 32 民たみの集あついで神かみをあがめ＝ 長ちやう老らうたちの集あつまりで神かみをた
 たえよ

使徒書

朗読者 「使徒書はコリントの信徒への手紙二 第五章十四節から」

14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになりました。15 その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。16 それで、わたしたちは、今後だれをも肉に従って知ろうとはしません。肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。18 これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通

してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。19 つまり、神はキリストによつて世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。20 ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わつてお願いします。神と和解させていただきなさい。21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によつて神の義を得ることができたのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マルコによる福音書第四章三五節以下に記された主イエス・キリストの福音。」

会衆 「主に栄光がありますように」

会衆 「主に栄光がありますように」

35 その日の夕方になつて、イエスは、「向こう岸に渡ろう」と弟子たちと言われた。36 そこで、弟子たちは群衆を後に残し、イエスを舟に乗せたまま漕ぎ出した。ほかの舟も一緒であった。37 激しい突風が起り、舟は波をかぶつて、水浸しになるほどであった。38 しかし、イエスは艫の方で枕をして眠つておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」と言つた。39 イエスは起き上がつて、風を叱り、湖に、「黙れ。静まれ」と言われた。すると、風はやみ、すっかり風になつた。40 イエスは言われた。「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」41 弟子たちは非常に恐れて、「いったい、この方はどなたなのだろう。風や湖さえも従うではないか」と互いに言つた。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」